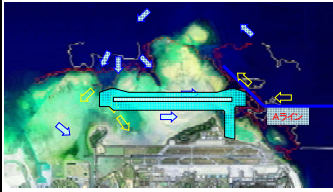
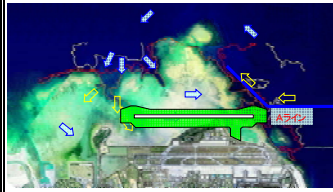
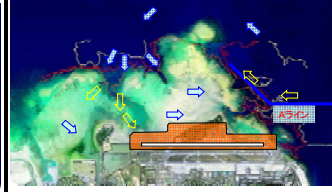
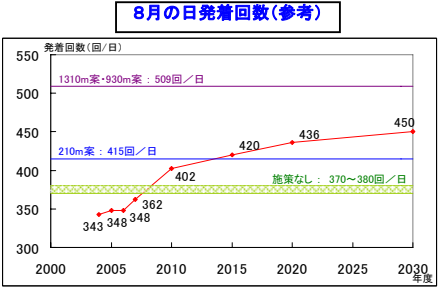
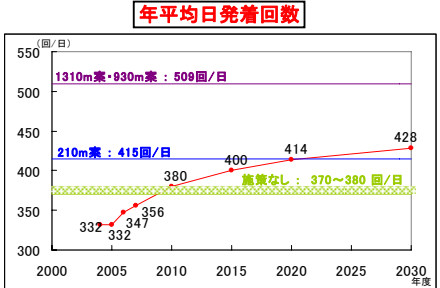


複数案の比較検討

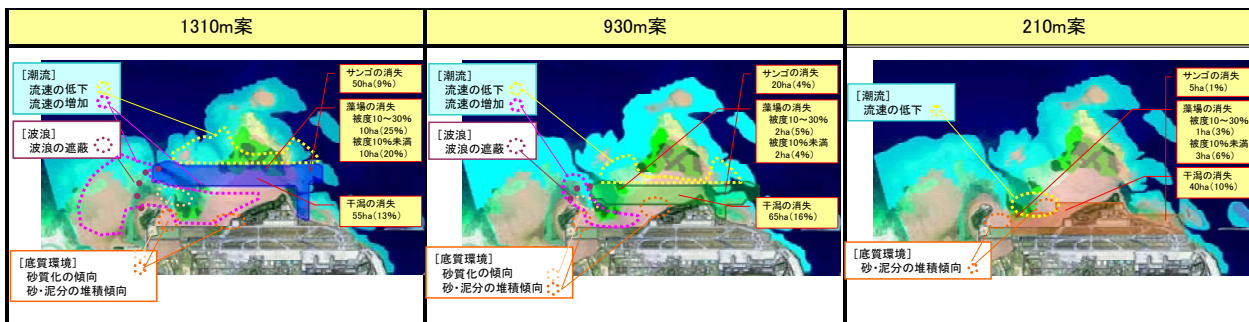
平成20年 9月22日
内閣府 沖縄総合事務局

比較結果

			1310m案	930m案	210m案	備考
						
評価視点	評価項目	評価の内容				
① 需給逼迫	空港能力	将来需要への対応 2030年の需要への対応可能性 ※一般的な空港計画では、完成後5～10年程度までの需要予測に基づき、規模を決定。	<ul style="list-style-type: none"> 日発着回数: 509回/日 2030年度時点の需要に対応可能 		<ul style="list-style-type: none"> 日発着回数: 415回/日 2030年度時点の需要に対応不可能 	
	概算工期	準備工を開始とし、護岸工事、埋立工事、舗装等工事を経て完成に至る期間。(環境アセス等に要する期間は含まない)	約7年	約8年	約9年	<small>※注1: 930m案が1310m案より概算工期が長いのは、埋立土量が1310m案を上回るため。 ※注2: 210m案が他家より概算工期が長いのは、西側施設移転整備に期間を要するため。</small>
② 利用者利便性	予約環境	2030年時の座席利用率を用いて、予約の取りにくさ	検討中	検討中	検討中	
	地上走行距離	増設滑走路に着陸してから、スポットインまでの地上を走行する距離	約3100m	約2200m	約1500m	
③ 事業効率性	概算事業費	増設滑走路・連絡誘導路とその用地に加え、移転補償費、照明設備や付帯施設に係る整備費	検討中	検討中	検討中	
	社会経済効率性	費用便益分析 事業効率性を、当該事業の費用と受益者側の便益との比	検討中	検討中	検討中	
④ 地域安全・振興	地域振興	経済波及効果 入込み客増加に伴う県経済への経済効果	検討中	検討中	検討中	
	安全	リダンダンシー 1本の滑走路が利用できない場合、残りの滑走路が運用可能か	2本の滑走路が共に精密進入用で配置されることにより、1本の滑走路が閉鎖された場合でも運用が可能	2本の滑走路の内1本の滑走路が非精密進入用となるため、気象条件が悪い場合等には着陸できなくなる可能性がある		
⑤ 長期展望	長期展望	長期的な拡張(新たな需要対応、利便性向上等)への柔軟性	新たな航空ニーズ等将来への対応策として、現滑走路と増設滑走路との間に展開可能な空間が十分確保できる。滑走路間へのターミナル地域の配置が可能となれば、利便性及び空港能力の向上が図られる。	新たな航空ニーズ等将来への対応策として、現滑走路と増設滑走路との間に展開可能な空間が確保できる。滑走路間へのターミナル地域の配置が可能となれば、利便性及び空港能力の向上が図られる。	新たな航空ニーズ等への対応策として、増設滑走路の沖側に展開用地を確保することは可能。しかし、利便性及び空港能力は、滑走路増設後とほぼ同じ。	



比較結果



評価項目		評価の内容			
大気環境	航空機騒音	航空機による騒音影響 沖側に滑走路を増設することから、発着回数の増加に伴う顕著な影響はみられない。			
社会的環境	人と自然との触れ合い活動	瀬長島の利用可能性	制限なし	制限なし	頂上付近で一部利用が制限
	歴史的・文化的環境	大嶺崎周辺区域の利用可能性	現状と変わらないが空港用地内で制限あり	空港用地となり一部利用不可	空港用地となり利用不可
	自然環境の評価ランク	瀬長島への影響	変更なし	変更なし	瀬長グスク跡(ピット群等)に一部改変あり
	底質	大嶺崎周辺区域への影響	変更なし	拝所1箇所及び大嶺部落跡改変有り	拝所等4箇所及び大嶺部落跡改変有り
水環境	潮流	沖縄県が定めた「自然環境の保全に関する指針」の評価ランク1にかかる面積	約50ha	約55ha	約15ha
生物の生息場	消失面積	新設滑走路を配置した際の景観への影響を検討。	大嶺崎から沖側に滑走路が増設され、水平線向きの眺望景観が変化する。		増設滑走路は眺望できるが、干潟域の眺望はある程度確保され、現況からの眺望景観の変化の程度は比較的小さい。
	底質	滑走路増設の埋立に伴う底質の変化を検討。	流況と波浪の変化に伴い瀬長島と増設滑走路の間で砂質化、瀬長島北側や大嶺崎南側で砂・泥の堆積傾向が懸念される。	流況と波浪の変化に伴い瀬長島と増設滑走路の間で砂質化、瀬長島北側や大嶺崎南側で砂・泥の堆積傾向が懸念される。	底質環境の変化は小さい。
	波浪	滑走路増設の波浪に伴う波浪の変化を検討。	現状で卓越している北北西の波浪が、遮られる。	現状で卓越している北北西の波浪が、遮られる。	波浪の遮蔽の変化は小さい。
	埋立面積	埋立面積	約150ha	約140ha	約50ha
生態系	消失面積	サンゴ、藻場[被度10~30/10%未満]、干潟の消失面積について検討。			
	生態系毎消失面積	サンゴ礁、礁地、砂質干潟、泥質干潟の消失面積について検討。			
	埋立材の確保	大規模な埋立工事のため、埋立材確保の難易度(必要土量)を検討。	約1,000万m ³	約1,300万m ³	約200万m ³
	総合評価	総合評価	検討中	検討中	検討中